



現代宇宙物理学と意識

いなふくクリニック  
稲福 薫

「わたし達はどこから来てどこに行くのか」画家ゴーガンが晩年に問いかけた疑問はすべての人間に問いかけているものではないだろうか。わたし達の医学もどこに向かおうとしているのだろうか。この課題を追求して三十年、ようやくその答えがうすぼんやりとはあるが見えてきたような気がしてきた。そして、宇宙物理学者達もそのことを追求してきて、同じ答えにたどりついているようである。

現代宇宙物理学の最先端にある学者が宇宙についての最新の知見と課題をわかりやすく書いた本がある（「宇宙はこうして誕生した」佐藤勝彦著、東京大学教授、(株)ウェッジ発行）。この本を読んで久しぶりに興奮してとりこになってしまった。

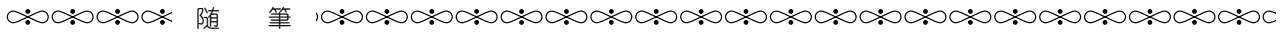
それによると、現在の宇宙は第二の膨張をしているという。ビッグバンの第二ステージだという。そして、さらに最近の宇宙観測の結果、宇宙は3%の目に見える物質と97%の現在では測定不能のダークマターやダークエネルギーによって成り立っていることがわかった。すなわち、宇宙にある星々をすべて合わせても宇宙の構成要素の3%にしかならず、このダークエネルギーが無ければ現在の宇宙は存在し得ないし、宇宙の骨格をなしているのがこのダークエネルギーだという。

そして、私たちの宇宙がこの宇宙として存在するには、実は私たちが認識しているということが肝要だという。というのも、理論的にはいろいろな宇宙が存在することが示されてはいるが、この宇宙のみが私たち人間に認識される。ここで卵が先か、鶏が先かの話になる。私たちがいる宇宙以外にも宇宙があることは理論的に示されてはいるが、それ以外の宇宙の宇宙定数（この宇宙を定義付けている物理学的定数）は私たちには認識できない。例えば、どこかよそにも宇宙があるというのならそれを写真に撮っ

てこいと言われても、写真そのものがこの宇宙でしか成り立たないものだからよその宇宙は写真に撮れないのである。要するにわれわれ人類の行っている宇宙観測はわれわれの宇宙しか見えないというのである。このように、宇宙の語源であるユニバースという「単一の世界」とは私たち人類にとってだけ単一であるにすぎないのだという。

さらに最近証明されたというのが、宇宙誕生後100億年目にして第二の宇宙膨張が起こったから、この太陽系が、そして地球が、さらには人間という私達が存在しているというのである。それがちょうど100億年目の膨張だったからこそ人間が生まれたという。それが後でも先でも人間は存在し得なかった。それはあまりにも確率的にはあり得ないほどにぴったり起こっているのだ。偶然の確率ではとても考えられないことだという。だから、人間が認識しているからこの宇宙が存在するという人間原理を入れないことにはどうしても理論的には成り立たないというのである。

ここで、「人間が認識する」という「人間」の部分にこだわるから話がおかしくなるのではないか。実は、意識は人間だけにとどまらず、もっと無限に広がったものである。私はこれまでの経験から意識というものは無限の広がりがあると実感している。意識は自分だけにとどまらず、他人、空、植物、石、物、動物、大地そして人類全体、地球全体、宇宙全体とすべてつながっている。いや、一つなのである。そう考えなさいと言うのではない。意識というものは事実としてそうなのである。私はそれを「無限の心」と称している。個人の意識が個人にとどまると誤解しているのがすべての間違いのもとであり、その誤解から全体との不調和が起こり、心や体の病気が起こる。それは人間が思考にはまっているからであり、思考にはまっている限り自らの意識の無限性には気がつかない。そして、人間が思考にはまっていることがこの人類社会と地球が不調和をきたし、病的になり、自己崩壊する唯一最大の元凶だと私は声を大にして言ってきた。その人間の意識を本来の姿である「無限の心」に誘導することで心も体も根源的な健康を得ることができ、それだけでなく、それは人類がこの世界や宇宙と調和して



生きることにもつながる。これこそが医学の果たすべき役割であり、毎日の医療で簡単に実践できることでもある。

要するに、意識は時空を超えている。そして、この宇宙に遍在する、あるいはこの宇宙と一体不可分である意識の存在が、この宇宙の構造を決め、果てには地球や人間を作ったということである。宇宙は意識そのものなのである。現代宇宙物理学はこの事実を肉薄しつつある。とすると、計画通りぴったりに地球や人類ができるのは当然のことである。たとえば、ある人が何億分の1という確立のくじ引きにあたったとしよう。その人は当たったことに驚いてはいるが実はくじ引きを作ったのは彼自身であり、自分が当たりくじを知っていたことに気がついてなかっただけだというわけである。現代宇宙物理学がダークエネルギーとっているのは、実はこの意識ではないか。古来、宗教はそれを神と表現していたのではないか。しかし、宗教は信じることであり、科学は実証である。実証検分の方に進んでこそ真実が見えてくる。ここから現代宇宙物理学の驚異的な成果が生まれた。

人間の意識は宇宙を見ながら実は自らの意識を再発見している。それは以下のように例えられるだろう。人間の中のある一つの細胞は細胞単独として独立して存在し得る。人間の細胞一つから人間の全体が出来上がることは理論的に証明されている。そして単細胞生物もいる。細胞とはもともとそんな存在である。だから細胞は、自分は自己完結して存在しているという認識を持っていた。その細胞が自分の周囲には何があるだろうと探索を始めた。その結果、細胞は、自分が実は心臓の一部であったことに気がついた。それは細胞にとっては驚天動地の事実であった。自分の周りを宇宙が回っていると思っていた人間が実は地球の上に立っていることに気付いたのと同じである。さらに心臓の外側には何があるのか探索を進めた。その結果血管が見つかり、神経が見つかり、骨筋肉が見つかり、とうとう人間全体が見つかり、自分が人間という体の一部であることに気がついたのである。細胞が、これまで自分の意識は自分個人として自己完結していると思っていたのは誤解であり、実は、自分の外側に自分の何億倍もの巨

大な人間がいて、その意識の一部だったことに気付いたわけである。これが宇宙物理学に起っていることではないか。

宇宙物理学は宇宙の果てを探索していくうちにいつのまにか人間に戻ってきた。一方、医学も細胞にまで探索を進めていくうちに、人間に戻ってくるだろう。ここで宇宙物理学と医学の融合がおこる。そして、宇宙物理学も医学も、いつかは意識を測定できるようになるかもしれない。そこですべてが判るというわけである。宇宙物理学が「宇宙は神が作った」と信じる宗教を否定し、実証を検分し続けたあげく、その神が何であるかにととうとう行き着くというわけである。

いや逆に、結局のところ意識は測定できないということになるのかもしれない。というのも、例えば意識がブラックホールの中から出てきたものとする、意識は他次元の世界から来るものであり、現次元の世界では測定できないことになる。だから、結局のところブラックホールの中は神様に任せることしかなくなるのかもしれない。それは今までの人間の神の概念、すなわち神は、確かに居はするが、わたし達人間には見ることでできない、どこかよその世界から来るものであるということとよく一致している。しかし、ここで大事なことはその神が実は意識であり、その意識が自分とは離れた別のところにあるのではなく自分と一心同体であることに気がついたことにある。

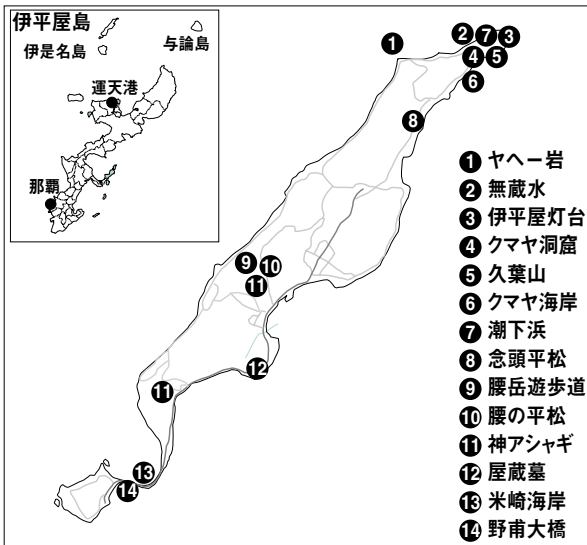
いずれにしても、人類の心はそのうち第二のコペルニクスの転換をきたすだろう。ある宇宙物理学者の予言では、人類は地球生物から宇宙生物へと進化していくという。その時、今までの地球生物学的な生命の概念は乗り越えられ、宇宙に漂う暗黒物質も生命である、あるいは宇宙そのものが生命である、なんていう新しい生命観が起こるだろう。それは、命の境界は不明であり、全体が個であり、個は全体であるというはるか2,500年前の老子の「さとりの」が事実であったということに気がつくのである。そして、その事実は一部の覚者だけのものではなく、多くの地球人が共有するようになるだろう。その時、地球と人類は全く新しい時代を迎えることになるかもしれない。

# 随筆



## 伊平屋島自転車一周の旅

曙クリニック  
玉井 修



伊平屋の地図

本格的な Made in USA のロードレーサーを買って、自分で少しずつチューニングを施してきた。ドロップハンドルは高速巡航には向いているが、比較的街中で走らせることが多い場合はあまりに前傾姿勢が強すぎて疲れるし、前屈みの姿勢は体の柔軟性が無くなり関節が硬くなってきたこの年になると安全確認の時にさえ首がつりそうになるため、ストレートハンドルに変えた。元々がロードレーサーなので車重は8kgほどしかない非常に良い自転車である。これに前後ともフランス製のミシュランタイヤを履かせてよりグレードアップした。もちろんチューブもミシュラン製にして自分で組み込んだ。自転車屋さんが出来そうなほど工具も買ってきて、空気圧などのチューニングも怠りなく、グローブ、ツーリングパンツなどの身につけるアイテムもなかなか凝ってみた。自分でコツコツと手を加えた自転車は完璧な仕上がりである。5月の連休に伊平屋島の村役場にいる高

校の同級生と伊平屋島一周自転車ツーリングを計画し、旧交を温めつつ、命の洗濯をする予定であった。連休までにはしっかり自分の体力もつけ、酒を断ち、万難を排して伊平屋入りの予定であった。しかし、結局は何の練習もできず、連休前には友達と採点機能付きのカラオケスナックで射幸心に煽られるまま、950点を目標に飲んで歌いまくり、ほとんど声がつぶれ、頭がボーッとしたまま5月3日の出発の日を迎えた。

伊平屋行きのフェリーは午前11時に今帰仁の運天港から出ている。その時間までに運天港まで着かなくてはいけない。5月3日はまず、6時過ぎに起床し、自転車をワゴンRに積み込むため分解する事から始めた。ロードレーサーは前輪が簡単に外すことが出来、ワゴンRの様な軽自動車の後部座席に積み込む事ができる。一路沖縄自動車道路を北に走り、快適に許田インターチェンジまでやって来たら、なんと朝の8時だというのに1kmを越える渋滞である。運天港の近くでソバでも食べようと目論んでいた私は、もしかしたら11時までに運天港にたどり着かないのではないかという不安に駆られた。ラジオで交通情報を聴いてみると、北部は自動車道路を過ぎてもあちらこちらで渋滞しているらしい。自分もその一員だということも忘れて、どうしてどいつもこいつもゴールデンウィークに北部観光へ殺到するんだと、憤っていた。

水も飲まず、トイレにも入れず、運天港に着いたのは10時少し前であった。運天港の周囲にはパーキングがいくつもあり、1泊800~1,000円程度で預かってくれる。私は港のすぐ近くのパーキングに入り、そこで自転車を組み立て、荷物のリュックを背負い、運天港に入っていった。予想はしていたが、運天港は人と自動車で混んでいた。伊平屋にはフェリー伊平屋というフェリーが1日2便出ている。車ごと島に渡ることも可能で、約30台はいっぺんに乗船できる。港の発券所でフェリー往復券¥4,530と自



写真1；運天港に接岸したフェリー伊平屋



写真2；伊平屋港ターミナル、右に虎頭岩（とらずいわ）が見える

転車の航送料¥1,960を支払う。自動販売機で栄養ドリンクを買って飲み、飢えを癒しつつ、空を見上げれば空気の澄んだ快晴である事に気がついた。朝からドタバタして交通渋滞に巻き込まれ、イライラしていると今日の良き日を満喫することなく午前中を過ごしてしまうところであった。ぼかぼかした陽気の中、太陽の下でしばし読書などをしてしていると、間もなくフェリー伊平屋が入ってきて、見事な手際の良さで接岸し、船から沢山の車と人が下船してきた（写真1）。

下船が終わると、すぐに乗船が始まった。フェリー伊平屋は30台の乗用車と私の自転車を積み込んで定刻の11時に今度は伊平屋島に向かって出航した。フェリーはほとんど満席で、自転車の積み込みのためほとんど最後に乗船した私は伊平屋までの1時間半の間ほとんど立ちっぱなしであった。デッキに出ると波穏やかで、日差しは柔らかく、風が気持ちよく立ちっぱなしの苦痛などは感じなくて済んだ。むしろ、この方が良かったとさえ思った。PHSの愛用者である私は、伊平屋でPHSが使えない事を知っていた。運天港から遠ざかると、程なくPHSは圏外の表示が出て、この社会から完全に切り離された気持ちになった。携帯電話でいつも誰かとつながっているという不思議な感覚はいつの間にか、圏外表示への心細さをもたらすようになっていく。私自身も立派な携帯電話依存症の様な気がする。



写真3；高校の同級生東恩納君と私

ほとんど揺れることもなく伊平屋島に到着した（写真2）。伊平屋港のターミナルは美しい瓦屋根が印象的であった。その後ろには虎頭岩とらずいわという岩山がせり出している。空は青く、少し黄砂でけむっていた。手際よくフェリーが接岸すると、今度は一番最初に下船できた。自転車で乗りながら伊平屋の土を踏んだ。高校の同級生が迎えに来ているはずだ、と思ってあたりを自転車で探してグルグル回るがそれらしい人は居ない。おかしいなと思っていると、突然お腹の少し突き出た、メタボリックらしき男性が私に声をかけてきた。おおお！東恩納君。どうしてこんなになっちゃったの？私の知っている東恩納君は駅伝選手で、ガッチリした、赤銅色の好青年だったはず。高校の同級生の東恩納君は私と一緒に自転車ツーリングをしようとして自転車で来ていた。しかも空気の抜けた、整備不良気味のマウンテンバイク。これじゃ全然私についてくることはできないよ、等と心では哀れ

んでいた。後に大変なしっぺ返しがやってくる事も知らずに (写真3)。

とにかく、お腹が空いていたので港の中のレストランで腹ごしらえをする事にした。共通の友人の消息やお互いの近況を語りながらお昼ご飯を終え、まずは荷物を置くために、ほど近いホテルにチェックインした。1泊朝食付きツインのシングルユースで¥5,500である。冷房もバス・トイレも完備され、快適な部屋に荷物を置き、身軽になった私は少し太めになった同級生と伊平屋一周ツーリングに出発する事にした。時刻は午後2時過ぎ、今日は西回りコースで、1周約39kmの伊平屋島をゆっくり走れば夕方あたりには南端の米崎海岸に到着し夕日を見る事ができるはずであった。

ホテルから北に向かって、快適に自転車を走らせ、先ほど着いた伊平屋港を右手に見ながら10分ほど走ると東恩納君が自転車を止めて、この虎頭岩からの景色が絶景なので登ろうと言う。トラ..ズ...?かなり不安に感じながらもその岩山に登る事にした。自転車では途中の休憩所まで急な坂を一気に登る、かなりの上り坂で、いきなり大殿筋が痙攣しだした。休憩所で自転車を駐輪すると、そこからは岩山を徒歩でぐんぐん登る。日頃の不摂生のため、全くヤワになった心肺系がすぐに悲鳴を上げた。更に腓腹筋が痙攣を生じ、頂上で眼下に広がる前泊の集落を撮影している時はフラフラで、ほとんど

頭は低酸素状態であった (写真4)。少し休もうとしたが、あまりに暑く、さきほど駐輪した休憩所まで足場の悪い岩山を下った。ほとんど休む事もなく次の目的地へ行こうとする東恩納君に私は必死で声をかけた。「吐きそうだ、少しここで横にならせてくれ!」。体中の筋肉が痙攣を起し、心臓はバクバクいって今にも死にそうだった。10分ほど横になれば気分も良くなると思ったら、結局その場を1時間動けなかった。情けない、メタボリックだの、整備不良だのと思っていた東恩納君に全くかなわない。聞けば東恩納君は今でも腹筋と背筋を1日150回欠かさないとのこと、出ていると思ったお腹は、実は腹筋だったのか...駅伝選手だった彼の基礎体力は衰えたとは言え私の遠く及ばないもので、今更ながら自分の体力の無さを痛感した。日頃から運動はやらないとやっぱりダメなのですね (写真5)。

余程、今日はこれでホテルに帰って休もうと言おうとしたが、東恩納君は自転車に跨りニコニコしながら待っているので結局言い出せず、予定を大幅に遅れて1時間も休憩したあと一応北に向かってもう一度走り出した。ゆっくり走っていると天然記念物の念頭平松にんとうひらまつが見えてきた、ここで記念撮影をしていると、気分が良くなってきた (写真6)。この調子なら何とか行けそうである。クマヤ洞窟を過ぎ、島の北端、久葉山にやってきた。ここでも東恩納君は、この灯台からの景色が雄大なんだと盛んに登坂を勧める。私は先ほど大変な目に遭っているの



写真4；虎頭岩頂上から前泊集落を臨むが、頭はフラフラ



写真5；岩のぼりでグロッキーになった私





写真6；念頭平松の前、少し気分は良くなっていた。



写真7；久葉山灯台への登坂！実は立っているのがやっと

躊躇したが、写真展に出品する写真を撮る為に登坂を決行した。しかし、ここもまた更に険しい坂が続いた。自転車を押しながらの登坂で、この曲がり角を過ぎれば直ぐだよ、と言われて曲がり角を曲がると更に遠くにまたもう一つ曲がり角が見える。いくつかの曲がり角を朦朧として曲がると東恩納君が手招きをしている。そこで振り返るとそこには美しい海岸線と、遠くに見える山の稜線がいくつも重なり、さらに雄大な海と雲一つ無い青空がどこまでも続いていた（写真7）。

久葉山を下り、伊平屋島の北端を廻って西海岸に入ると、風が強く、民家が少ない。伊平屋島は西海岸と東海岸の景観が全く違う。西海岸はどちらかというと寂しいイメージで、風が強く、切り立った岩山があり、人がほとんど居ない。とっくに体力の限界を超えていた私は恐る恐る今どの辺なのかを尋ねると、やっと北半分回って中間地点なのだそうである。この調子では夕日を見るどころか、夜間走行になりかねない。夜間は自転車にとって、とても危険である。私は今日はここで一旦半周で終わり、あしたの午前中に南半分を回ろうと提案し、東恩納君も了承してくれた。私たちは島の真ん中を突っ切ってホテルのある島の東側に出た。小学校からカラスの歌が流れ、外で遊んでいる子供が居たらみんなで声をかけて帰宅させましょうとアナウンスしている。私たちの子供の頃はこのようなアナウンスもごく普通にあったように記憶している。伊平屋にはそんな私たちが忘れかけてい

る子供の頃の良き時代の原風景が残っていた。いつの間にか子供たちの深夜徘徊が日常化し、大人の集う居酒屋に夜の11時頃まで子供のうろつく時代になっている。これを異常と思わない自分がやはりおかしくなりつつあるのだと認識させられた。私はホテルに着いてシャワーを浴びると、東恩納君と地元の居酒屋に出かけ、そこで近海魚の煮付け、特産泡盛の照島、貝の和え物や味噌煮をたくさん食べた。ひどく疲れた体は、ホテルに帰ると直ぐに眠りに落ちた。

翌5月4日も快晴である。ホテルでの朝食は伊平屋特産の白米が美味しい。伊平屋には多くの田んぼがあり、沖縄本島ではまず見かけない水田の風景が広がっている。9時に待ち合わせの東恩納君と、まずはホテル近くにある伊平屋の診療所を訪ねる。県立北部病院附属伊平屋診療所である。月に3～4件はヘリコプター急患搬送をお願いするそうで、前日お酒を飲みながらやったヘリコプター急患搬送に関しての話を思い出した。島の人間からしてみれば、ヘリコプターが飛んで来て、ドクターが添乗して貰えればそれにこしたことは無いが、一番困るのは何の手だても無くなる事だと言われた。何か次の手段、次善の策があれば島民からすれば大変助かると言われた。離島医療を多く抱える沖縄の課題もここに見える。

さて、伊平屋診療所を過ぎ、前日にショートカットした道に戻って西周りで島の南半分を回るコースに入った。快適に走り、野甫大橋を渡



写真8；野甫大橋を気分良く走る



写真9；青い海と青い空、聞こえて来るのは波の音

り野甫島に足を伸ばす。そこでは特産の塩作りが行われ、もずく養殖、アーサ養殖の浮きがエメラルドブルーの海に穏やかに漂っていた（写真8）。

野甫を過ぎ、東海岸に入るとゴールはもうすぐである。2日目は快適そのもので、2日かけて一周39kmの伊平屋島を完走した。午前11時にはホテルに到着し、預けてあった荷物を受け取り伊平屋港に向かった。晴天に恵まれ、旧交を温め、うまい食事をし、命の洗濯をし、離島医療について考え、青少年の健全育成について考えさせられた。そして、日頃の不摂生により衰えつつある自分を知り、日頃の運動の大切さを

再認識させられた。午後1時のフェリーに乗り込む前、お互い今後の健闘を誓い合って東恩納君とガッチリ握手をした。お互い、死ぬまで一生懸命生きていこうね（写真9）。

2日間の過酷なツーリングと往復の船旅、更に長距離運転を終えて那覇に着いたのは夕方、疲労困憊した体は汗と潮でベトベトであった。自宅でシャワーを浴びるとお尻が痛い。そっと自分でDigital examinationしてみると7時の方向に立派な痔核が出現していた。余りに過酷な今回の旅を今更ながら思い知り、そっと強力ポステリザン軟膏を塗布した。

**原稿募集！**

**随筆のコーナー（2,500字以内）**

随時、募集いたします。日常診療のエピソード、青春の思い出、一枚の写真、趣味などのほか、紀行文、特技、書評など、お気軽に御寄稿下さい。

お知らせ

平成19年度沖縄県医師会親睦囲碁大会  
— 納涼碁会 —

級位者歓迎、初心者講座も開催

主催：沖縄県医師協同組合

去った3月18日医師会親睦囲碁大会を催したところ20名の方が集われ、好評でした。それに力を得て平成19年度は納涼碁会を企画しました。おいしい料理と冷たいビールあるいはお酒を傍らに碁に興じてみませんか。

前は参加者全員が有段者でしたが、当方仲間を増やしたく級位者も大歓迎です。前頭前野を使う囲碁はポケ防止にもなると言われています。これを機会に碁を覚えてみようと思われる方に初心者講座も合わせて開催します。

(大会世話人：県医師会理事 村田謙二)

日 時：7月15日(日曜) 午後2時より 翌日は海の日で公休日です。  
場 所：寛味「んかっか」 南風原町新川46番地の1 TEL 098-889-1294  
会 費：¥2,000  
集 合：午後2時現地あるいは午後1時45分南部医療センター成人外来受付前  
(玄関を入れて右手にお進み下さい)

日 程

対局開始 午後2時  
懇親会 6時頃より8時頃まで  
(自己紹介や今後の会のあり方等を話し合いたと思います)

おまけ

お店は夜12時ごろまで開いています。懇親会の後は流れ解散とし、碁を打ち続けるのもよし懇親を深めながら飲むのもよしとしたいと思います。

問い合わせ先

沖縄県医師協同組合 TEL 098-915-2045 FAX 098-877-0629  
県立南部医療センター・こども医療センター(村田先生) TEL 098-888-0123 / 携帯 070-5493-9861

申し込み方法 締切日 7月10日(火)

本誌面(申込書)をコピーして協同組合までFAXよろしくお願ひします。

平成19年度沖縄県医師会親睦囲碁大会参加申込書

平成19年 月 日

お申込は：  
沖縄県医師協同組合  
FAX：098-877-0629

医療機関名：  
住 所：  
T E L：

参加者氏名	囲碁歴・段 級位



# お知らせ

## 会員にかかる弔事に関する医師会への連絡について（お願い）

本会では、会員および会員の親族（配偶者、直系卑属・尊属一親等）が亡くなられた場合は、沖縄県医師会表彰弔慰規則に基づいて、弔電、香典および供花を供すると共に、日刊紙に弔慰広告を掲載し弔意を表することになっております。

会員に関する訃報の連絡を受けた場合は、地区医師会、出身大学同窓会等と連絡を取って規則に沿って対応をしておりますが、日曜・祝祭日等偶に当該会員やご家族からの連絡がなく、本会並びに地区医師会等からの弔意を表せないことがあります。

本会の緊急連絡体制については、平日夜間、日曜・祝祭日については、事務局が所在する県立浦添看護学校の警備員が対応し、担当職員に取り次ぐことになっておりますので、下記宛ご連絡下さいませようお願い申し上げます。

連絡先 沖縄県医師会事務局

TEL 098-877-0666

担当者 庶務課：上原貞善 池田公江

# お知らせ

## 訃 報

生前のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

内藤 寛 先生（享年79歳）

平成19年5月30日ご逝去